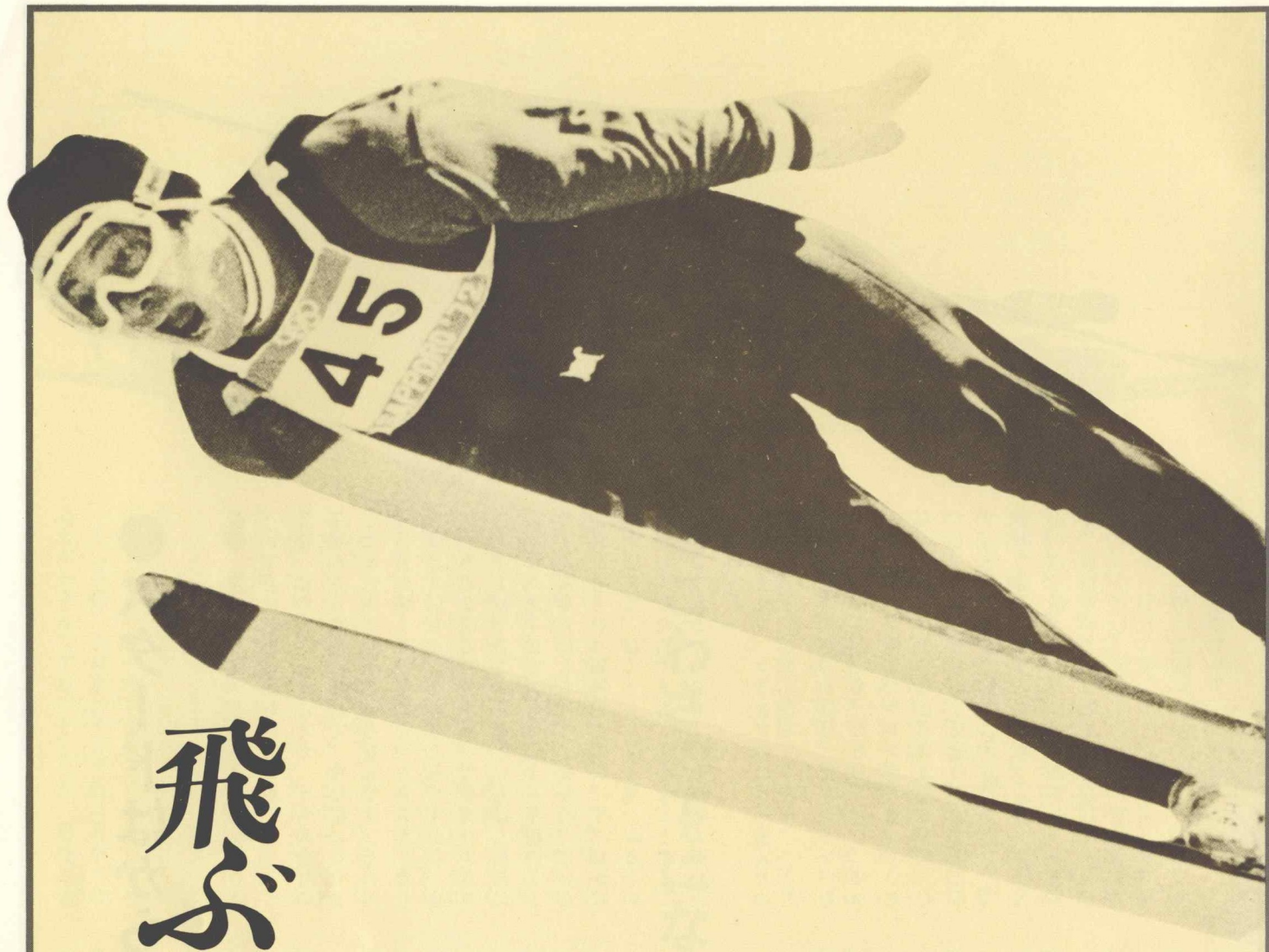


リコー三愛グループ会誌 San-ai

1975 OCTOBER No. 79

特集●人間教育を考える
記録に挑戦する人シリーズ●笠谷幸生
カラー●女子社員の制服





飛ぶ

笠谷幸生 記録に挑戦する人シリーズ……③

笠谷さんは「飛ぶ人」である。話題は、飛ぶことに終始した。その話の中から、仕事や人間関係などの中の「飛」の意味を感じるか、一瞬に賭ける努力を読みとるか、それは読者の自由である。

《記録》 笠谷幸生の名がスキージャンプの仲間うちで話題になるようになったのは、彼が余市高校一年生のときである。このとき全日本級のジャンプ大会で三位に入り、すでに高名のジャンパーであった丸岡ちがいの美兄昌生氏（後のオリンピック・コーチ）を四位に蹴落としたところからである。

明大へ進んでからの活躍は一般スポーツファンにもよく知られるようになった。昭和三十九年、四〇年の全日本に二連勝、四一年にはユニバシアード大会で優勝した。

カサヤの名を国際的に不動にしたのは四四年のシャロテンブルク（スウェーデン）の大会で、六八・五〇m、七〇・五〇mを出し二二・八点の高得点で優勝してからで、「あのとき以来、幸生のジャンプは急速な進歩をみせた」と兄の昌生コーチも語っている。

四五年の札幌・大倉山で行われたNHK国際大会の九〇m級は一一・五〇mの国内最長不倒をマークし、それから連戦連勝、A級五大会のタイトルを独占した。この時期から四六年三月ノルウェーのホルメンコーレンの大会、四七年二月の札幌オリンピックへかけて、彼の一つのピークの時代であったといえる。

だがこの時期に彼は、ホルメンコーレンではいわゆる「ホームタウン・デジジョン」（地元有利の判定）に泣かされてもいる。

スキーのジャンプ競技は、飛距離と飛型の両方を点数に換算して順位が決まる。飛距離のほうにはTP点を基準六〇点として「一メートル一定の点数を増減するのであるから簡単に勝てるが、飛型のほうは、力、大胆さ、安定」という三大要素を審判員が個人の判定で

採点するのであるから、人によって主観のちがいもあり得るわけである。

ホルメンコーレンで笠谷は飛距離で地元のモルクを二・五mも上回っていた。しかし、国王の臨席、十万の大観衆の前で、ノルウェーの英雄モルクは、飛型点で笠谷を上回り笠谷は四点差で二位に破れた。

それから一年、四七年二月六日、第一回冬季オリンピックの四日目、札幌・宮の森ジャンプで笠谷は七〇m級ジャンプに八四・七九mを飛び二四四・二点を獲得して優勝、名実ともに世界のトップに躍り出た。これは笠谷選手にとつての最高の記録であったばかりでなく、日本にとつても冬季オリンピックに第二回以来参加して四〇年目に初めてメダルに日の丸をあげた栄光の記録でもあった。

戦い終ったとき笠谷のところへかけよって彼を肩車にのせて祝福したのはホルメンコーレンの勝者モルクであった。モルクは日本トリオにつづく四位の成績であった。ホルメンコーレンのいきさつを知る者も知らぬ大観衆はスポーツマンの友情の美しいシーンに感動した。ホームタウン・デジジョンなど所詮選手自身は関知しないことである。

ジャンパー笠谷の大きな特徴はサツツ（踏み切り）の力強さと、研究しつくされた飛行中の姿勢、冷静で思いきりのよい試合度胸といわれる。神経質といわれるが、科学的な、さわやかさの感じのほうがむしろ強い。来年二月四日からインスブルックで第二回の冬季オリンピックが開かれる。日本のジャンプ陣はまだまだ彼に期待するところが大きい。

●スタートはからっぽの頭で

斎藤 笠谷さんは、どういうきっかけでジャンプをはじめられたんですか。

笠谷 私の育ったところが、うちの会社の工場のある余市の隣村で、今は町になりましたが仁木というところなんです。そのへんは雪が深くて、冬になったらスキーなしではどうにもならないところですから、自然とみんな滑るんですね。雪がありすぎてスケートはできませんし。いちばん最初にはいたスキーはなにしろ二十八年前のことです。からなんにもなくて、父が持っていた四尺五寸という軍隊用のものです。ばかに幅が広くて、はくというより乗つかるという感じでした。まあ、そんなことで、ごく小さなときからスキーには親しんでいたんです。

斎藤 それで、ジャンプのほうへ進んだのは？

笠谷 直接のきっかけは、兄がジャンプをやっていたことです。ただし、もし、リフトなんかの完備したゲレンデで滑っていたら、ジャンプをするようにはならなかったでしょうね。ともかく交通の不便なところで、近くにはりっぱなスキー場なんかない。裏山で滑るほかないんです。一人か二人で、山の中で滑っていたって、あきちゃいますよ。自然とジャンプのまねでもしたくなります。ただし、尻もちジャンプですがね。

(笑い)

大田 ジャンプを本格的に始めたのは、いつころからですか？

笠谷 高校にはいつて全国試合に出るようになってからですね。

千葉 笠谷さんにお会いしたら、ぜひお聞きしたかったですけど、スタートする瞬間って、どんな気持ちでいるものなんですか？

笠谷 そうですね。スタートのときっていうのは、頭の中にはなんにもないほうがいいんです。ばかになって体に任せてしまいう。あんまり皆さんにはおすすめでできない状態です(笑い)。頭のなかに、なにかやってやろうという気持ちがあると、ブレーキ

●女性だつてとべますよ

佐考 笠谷さんのことなんか見てると、正直いって女と生まれたことが、とってもくやしいのね(笑い)。私もスキー買ってもらって三度目くらいにときにジャンプのまねしたらスキー折っちゃって…。とてもいいスキーだったんですよ。それでそれっきり。いまだに男に生まれてたらよかったのにと思ふことあるんです。

笠谷 いや、女性だつてとべますよ。去年あたりはノルウェーのアニタ選手がきて、とてもりっぱなジャンプをされたので、もう、ジャンプも男の競技とばかり言っではいられなくなりました。ちょっとさびしい気持ちもありますが(笑い)。まあ女性にも、

がかかってしまつて体がよく働かない。そこがいちばんむずかしいですね。
大田 いわゆる無念無想つてやつですね。そういう心境には、わりと簡単になれるものなんですか？

笠谷 いや、なかなかできませんよ。コンディションがわるいときは、これまでコンディションがわるくて失敗したときのことを思つてしまいますし、いい条件のときには、ここでひとつ、いい成績で勝つてやろうとか、どうしても思つてしまいますから。
大田 あ、勝とうと思つちやいけないんですか？

笠谷 練習の段階では、もちろん目標をきめて勝つために努力するわけですが、試合でいざスタートというときには、もう、そんなことを考えないほうがいいんです。

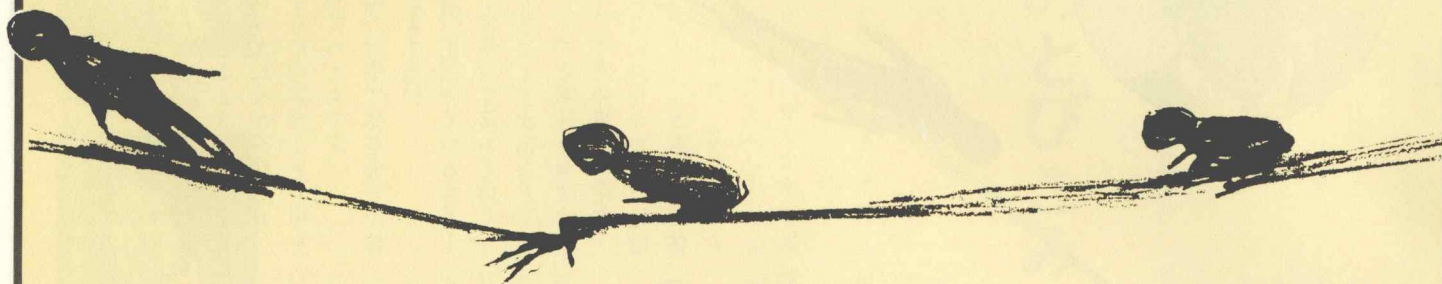
できる安全な競技だということを立証してくれたわけですね。

千葉 安全といつても、写真やテレビで見ると、山まで足の下に見えちゃって、こわいだろうなあと思うんですけど、そう、恐怖感っていうのはないんですか？

笠谷 ええ、そうは感じませんね。

大田 どういう感じなんでしょうねえ、最初に空をとんだときっていうのは。屋根から落ちたり、階段から落ちたりするのは違うでしょうし…。ぼくは屋根から落ちたことはありますけど(笑い)。いい気持ちのものなんですか？

笠谷 とんでる瞬間っていうのは、いい気



持ちとか、そういうんじゃないですね。そんなにこわくもないかわりに。野球でホームラン打っても、打った瞬間は気持ちがいいもわるいもないでしょ。いいのは玉がはいったときですよ。ジャンプも同じで、じょうずにとべたあとは、たしかに気分いいですね。野外の競技で、風とか、雪とか、いろんな悪条件の中でやるわけですから、それを乗りこえてとんだぞという安堵感ですかね。マラソンなんかで感じる充実感というのと、ちよつと違うようです。まあ、いまだに印象に残っているのは、失敗したときのほうです。

斎藤 自分で完全に納得できたジャンプっ

●こわさの下になにかがある

笠谷 こわいもの知らずっていうのは、ひととおり慣れて、自信ができて、体まかせでとべる時期ですね。ところが、そのうちに、体が何度か危険な場面を経験してくると、自分の意志に反して体が危険信号を出しちゃってうまくいきないうちが出てきます。

全然、こわくない時期っていうのも、たしかにありますね。そういうときは、いい記録が出ます。ただし、コンスタントにはなかなかいきませんね。

千葉 自分では、あまり自信がなかったのにうまくいったということもありますか？

笠谷 というわけでもないですが、学生時代に、試合の前の晩、友達とのみ歩いちゃって二日酔いのままジャンプ台に上がったことがあるんですね。そしたら、意外とよ

ていうのはあるものですか？

笠谷 いや、それができたら、もうやめますよ(笑い)。

大田 とぶ前の不安感ってものはないんでしょうか？

笠谷 (小さな声で) それはありますよ。

最初は、自分の技術が未熟なことからくる不安、それから、こわいもの知らずの時期をへて、もつとやっていると経験をしすぎて、また不安を感じてくるっていうことがありますね。

大田 そのところ、もう少し、くわしく話していただけませんか。

くつとべたんです(笑い)。その当時は、体のコンディションはすごくいいのに、意識面が強すぎて力が出せずにいたんですね、きつと。それが二日酔いのもうろう状態で、余計な緊張がとれて、すなおに力を出せなうでしよう。いまそんなまねをしたら、まったくだめでしょうけれど……。

●とぶときは空気にはさまって

千葉 もう、ジャンプなんかやめちまおう……なんて思ったことがありますか？

笠谷 ありますね、何度も。シーズンが来てもなかなか自分の思うようなジャンプができない。それまでスイスイ泳いでいた水

斎藤 いまでは、最初のころとは、また違ったこわさというのを感じておられるわけでしょうか。

笠谷 こわさがあつて自分が出てくるんで、こわいからできないというのじゃなくて、こわさの下になにかがあるんじゃないかという感じでやってきました。それでも、風の強い日なんかにとんどび終わると、ああ、これより練習の三十べんもやったほうがらくだなと思うことはありますよ。

佐考 スタートしたけどうまくいなくて、戻りたいと思うことなんか、あります？

笠谷 あ、それは何度もありましたよ。でもスタートしたら戻るわけにはいかない。コースはせまいですしねえ(笑い)。

大田 一度とんで、また階段を上がつてくるとき表情をテレビで見ると、なんか反省しながら登ってくるように見えますね。

笠谷 体がなかなか言うことを聞いてくれませんので、体に言い聞かせながら登ってくるわけですよ。しかし、台に登ってしまった、もう、呼吸を合わせてスタートするだけ。あとはとんで、落ちての結果待ちです。とび出してからどうしよう、こうしようと考えてみてもだめ。それ以前の問題ですね。

泳選手が全然泳げなくなったような感じで、どうにもならないときがあるんですね。全く空気にはさまれたようになれないときです。斎藤 空気にはさまれる？ どういうことですか、それ……。



笠谷 空気にはさまるんですよ。空気にさからったなら、なかなかうまく落ちていきませんから、じょうずに体の角度をかえまして、空気にはさまれながら時速九〇*ぐらいのスピードの中を落ちていくんです。

大田 途中で体を大きく伸ばしますね。

笠谷 すべてっているスキーに乗って落ちていく、スピードが出るとぐー

っと風圧がきます。

その風圧の中で、

しゃがんだ状態

から大きく体

を伸ばすん

です。そこ

で空気

抵抗にぶつかって落ちてしまいか、それとも体を伸ばした姿勢で空気にうまくはさまっていか、そこがうまいとへたとの境です。体を伸ばすと、すばめていたパラシュートを開いたようなもので、かなりのショックを受ける、その抵抗をなるべく少なくしながら体を伸ばすのが最高の技術のひとつなんです。そこで初速を落とさず、空気にはさまった状態でそのままいくと距離が出るんです。

佐考 とんでいて、すぐはがゆくなっちゃって、手で空気をかきたくることありませんか(笑い)。

笠谷 (まじめに) いや、それはあるんですよ。空気にはさまりそこねたときは、水の中で溺れかかったのと同じで、なんとかしようともがいてしまう。もう、そんなになつたら大失敗ですけど、もがかずにはいられませんね。

斎藤 風とか雪とかは、ずいぶん影響するものなんですか？

笠谷 自分で作った風圧の中で空気にはさまろうとするときに、それ以外の方向からの風を受けるとバランスが崩されて、ひどくやりにくいですね。ルールでは五割以上の風があれば競技は中止となっていますが、相手が風ですからね、いつ吹き出すかわかりません。それから雪が降ると、

降ったばかりの雪は滑りませんから助走のスピードが出ない。着地点の滑りもわるくなつて、つまづいたり転んだりしやすいんです。そういう悪条件で、スタートのとき、わあ、こりやだめだなどと思ったときは、まず失敗しますね。

●固定した型ではとべない

大田 こういうふうにとばおつていう計算を自分で立ててとぶんじやないんですか。

笠谷 いや、計算というのはできません。練習の時点では、自分はこのようにとび方をしようという目標を持ちますけれども、型とかタイムとか体の移動の流れとかです。

しかし実際にとぶときには、型ということは、ぼくは言いたくないんです。ジャンプというのは型にはめられないものです。板の上に乗ってとんでいるわけですが、とびながら絶えず姿勢が移動していくでしょう。なにかをこらえているという感覚はほとんどなくて、常に前へ、前へと行っているんです。

千葉 テレビで見ていると、ジャンプした瞬間、ぐーっと体が上にあがっていきま

ね。

笠谷 あ、あれはね、違うんです。上へあがつていくように見えるものですから、これからジャンプをやるのかと思ってる人は、おそれをなしかうやうんです。

大田 実際はどうなんですか？

笠谷 スタートしてから着地まで、上に向

くということはありません。あれ

そんなときは、失敗してもととつていう気持ちでとぶと、三度に一度はうまくいきますが…。

大田 一発当てればホームラン、はずれればピッチャーゴロみたいなものですか。

笠谷 そういうところ、大いにありますね。

は写し方による目の錯覚で、全部が降下の過程ですよ。

大田 そうなんですか、知りませんでした。

笠谷 だいたいマイナス一〇度ぐらいの角度で降下していくんです。プラスというときはないんです。

大田 なにか、すばらしい型を自分で完成すれば、それに従つてとべいいつていうんじゃないんですか。

笠谷 そういう型ができればいいんですけど、うがねえ(笑い)。人間の体っていうのは、なかなか頭で思うとおりには動いてくれないんです。瞬間瞬間の理想的な型を考えて、それをつないでいけばいいという理屈になります。全体が連続した流れになりますから、そういうぐあいいいかないんです。

千葉 でも、私たちがテレビで見ても、選手の一人ひとりに、それぞれの型があるように思えますけど…。

笠谷 もちろん、だれだれのフォームはこんなふうだっていうかたちはありますね。でもそれは、人それぞれに顔だちがあるようなもので、ちよつとみたら同じようにとんでいても、一回一回、全部違うんですよ。そのへんは、テレビで見ていたのでは残念

ながらわかりませんね。ばくも、ずいぶん何回もとびましたけれど、同じ状態とんだことって、一度だってありません。雪の状態ひとつとっても、非常に微妙に変化しますから。たとえば雪の上にスプールが二本、まっすぐついているように見えるでしょ。ところが、あれだって決して鉄道線路みた

いに平行についてるわけじゃない。体の動かし方と、雪の状態によって微妙にゆれているのがあたりまえです。ですから、なにか固定した型を考えて、それを崩すまいとすると、助走からして、うまくいかなくなるんです。

●水泳のとびこみはこわくて

千葉 練習なさっていて、いちばん辛いのはどういうときですか。

笠谷 シーズンはじめの練習のとき、オフシーズンに忘れてしまった感覚をとり戻そうと躍起になるんですが、それがなかなかむずかしい。二、三本、続けて失敗しますと、猛烈に腹が立ってきますが、自分がや

つてることでしょう、腹が立ってもぶつけるところがないんです(笑い)。

斎藤 合宿のときはどんなトレーニングをするんですか？

笠谷 まず七〇％は走ることです。走っているのは足腰をきたえるだけじゃなくて、全身運動ですから、内臓の機能もよくなりますし、いちばんの基本ですね。

千葉 ほかのスポーツもいろいろなさるんでしょう？

笠谷 やりますよ。好きですから、なんに

でも手を出しますが、たいしてうまくはなりません。

佐考 水泳のとびこみなんか、お得意でしょうね。

笠谷 いや、あれは弱いですね。五メートルも高

●おとなしい日本の観客

千葉 笠谷さんにとつての、ジャンプ競技の魅力って、どういうことでしょうか。

笠谷 ジャンプっていうのは、一種の毒がありますね。とりつかれるとなかなかぬけられないような。恐怖を乗り越える快感っていうんですかね、けがさえしなければ、たしかにおもしろいですよ。みんなと一緒にやって一緒に喜び合うという楽しさはな

いとこ
ろから、下
の水面を見ると
足がすくんでしま
つて(笑い)。

いかもしませんが。

大田 試合のときは観客を意識しますか。

笠谷 ええ、やつぱり多いほうが張り合いはありますよ。札幌あたりでやつても、もう少し集まってくれたらな...と思うことはあります。まあ、見ている人は寒いですがからね、むりに来てくれとも言



大田善久
リコー時計(株)



佐考智栄子
(株)三愛



斎藤修一
(株)日本リース



千葉秀子
(株)リコー



《経歴》笠谷幸生(三二)は北海道余市(よいち)市となり町仁木(にぎ)で生まれた。お父さんはその地の小学校の教頭さんで無類の山スキー好きであった。

余市は余市りんごニツカウスキーで知られる町であるが、笠谷選手のお父さんは就職指導の関係などでニツカの現会長と親しかった。ニツカの本社が余市にあったころのことであるが「幸生は大きくなったらニツカで働かせてもらいましょうが」本人も希望するなげひ来てもらおう、そんな口約束のようなことが笠谷のお父さんとニツカの現会長の間に早くからあった。だから、幸生選手は、ジャンパーとしての名が高まるにつれてあちこちの企業から誘いもあつたらしいがニツカへの就職を希望した。

四二年の入社であるからこの話は四一年のことであるが、ニツカの人事課では、さきの口約束のことであつたし「試験なしでいいよ」と言つた。ところが彼は「それは困る、ほかの人と同じに試験して決めてくれ。どんなに勉強してなかったかも知つてもらいたい」と言い張り、「一般なみの受験をして入社した。四一年といえはユニバシアードで優勝した直後で、さだめし肩で風をきって乗りこんでくるものと思われていた彼と、現実の笠谷とは大ちがいであつた。

企業人としての彼はまず工場で経理をやつた。それから北海道支店(札幌)で販売を担当した。現在もその販売課員である。仕事は誰にも負けないで、きちんとこなしているが、一年の半分は強化合宿や海外遠征で職場をはなれてしまう。

「彼はそのことを常に気にかけてますね。個人として仕事をおぼえることが他人より遅れる。また会社の人たちには迷惑をかけるってね。しかし彼がスキーを離れて帰ってくる日が来れば、そんなマイナスは一年で取り返しますよ。彼はそういう男です。いいことづくめの話をすると聞いてもらつてもいいですよ。社員としても笠谷は誰からも信頼され愛されています」——就職のさいの出会い以来、彼とつき合ひ、ながめつづけてきた青田さん(本社人事課長代理)は胸を張る。

「さわやかな男、笠谷は企業人、社会人としても一級の折紙がつけられるようである。

えませんが。

北欧での試合となるとすごいですよ。何万という観衆が地元選手をワアワアと応援して、こっちの氣勢をくじこうとする。それに比べると日本のお客さんはおとなしいものです。

佐考 世界記録ということを意識しはじめたのは、いつごろからのことですか。

笠谷 いや、ジャンプ競技には記録というのはないんですよ。あるのは成績だけです。そのとき、そのときの成績だけが残るわけです。しいていえば最長不倒記録というのがありまして、それは現在、一六九センチが世界記録になっています。転倒した場合でいうと一七〇センチを越えているんですよ。

斎藤 そういう記録は、まだまだ伸びるものでしょうか。

笠谷 そうですね。前は一五〇センチが限界だと言われていたのが一六〇になり、一七〇に迫っているわけですからね。現在の一六九とぶときですと、滑降のスピードが時速一〇四〜一〇五で、落下にかかるのもつと速くなります。そのスピードにどこまで耐えるかですね。

千葉 笠谷さんが挑戦しようとしているのはどのくらいの距離ですか。

笠谷 いや、ぼくは非常に臆病なほうですから、挑戦というのは、あんまりできないんです(笑い)。

大田 でも、世界選手権は意識されたのでしょうか。

笠谷 まったく考えてもいませんでした。

佐考 もしかしたら……とか(笑い)。

笠谷 (笑いながら)そりゃ、夢はありますよ。たとえば、だれか三億円くらいくれる人はいないかなあといった、そんな程度な

ら。ともかくオリンピックに出るくらいの人でしたらだれが優勝してもふしぎはない

んです。その日にベストコンデイションを出せた人が優勝するんです。

●みんなにささえられた札幌大会

千葉 笠谷さんは、コンデイションづくりはどんなふうにしてらっしゃるんですか？

笠谷 その、コンデイションづくりについてのが、ぼくは苦手なんです。そこで、自分の最悪の条件のときに、どこまでやれるかを目安にして試合に臨むわけです。練習のときにはどうやって最高の条件にもっていくかを考えますけれどね。試合のときは最悪の条件を目安にしていたほうが、それなりの力を出せますし、かなりひどい成績であっても納得がいきますから。

大田 国際試合のときは外国選手のことを強く意識しませんか？

笠谷 話をしないで練習ぶりだけ見ているとものすごくうまく見えちゃって、どうも心理的にうまくありません。それで、なるべく強そうな人のところへさっさと行っちゃって、握手をして、ひとこと、ふたこと話して友達になってしまふんです。そうすると、もう圧迫感を受けなくなりますよ。日本で世界のトップメンバーと最初に親しくなったのは藤沢選手です。ぼくはそのあとをついていったんですが、なかなか実力が伴わなくて苦労しました。

斎藤 いちばん印象に残っている試合というといつでしょうか。

笠谷 強い印象というのは、みんな失敗した印象ばかりですね。勝ったときだって終ってみれば反省、反省で、皆さんの思われ

てるようなものじゃないんです。周囲の

人にとつては必ずしも華やかなだけではない。まあ、練習によつてそこまではやれたという自信だけは残りますが。

千葉 札幌オリンピックの結果についてもそうなんですか？

笠原 そうですね。(考えながら)札幌でどうして勝てたかを自分なりに分析してみると皆さんに場を与えていただいたという感謝の気持ちだけが残って、自分というものは、くやしいほど出てきません。

大田 すると、今年からの目標は？

笠谷 まあ、どの試合にも勝ちたいですが、そうすると、ほかの人はだれも勝てなくなるわけで、そういうことはありえない(笑い)。

ともかく元気でとべているということに感謝して、一生けんめいやるということですよ。

ただ、ぼくがオリンピック予選を一番で通過するようでは、日本のジャンプ陣もさびしいなという気はしますね。

一同 どうもありがとうございました。

